



【感染症だより】

～手足口病～

6月から夏風邪の手足口病が流行しています。毎年夏に乳幼児の間で流行します。感染すると、3-5日の潜伏期を経て発熱（3分の1の人が発熱）、手・足・口に2-3mmの水疱がみられますが、ほとんどの場合2-3日で軽快します。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染などです。重症化することは稀ですが、髄膜炎、小脳失調、心筋炎、肺水腫、急性弛緩性麻痺など様々な症状が出る場合があります。ウイルスの型が沢山あるため、その年により症状はいくらか異なります。コクサッキーA6ウイルスに感染した場合は、治癒して1ヶ月以上経ってから、手足の爪が脱落することが報告されていますが、自然に治るとされています。手足口病を予防するワクチンはなく、特効薬も特にありません。しかし、手足口病は発病してもほとんどの場合軽症で、感染してはいけない特別な病気ではありません。ただ、口の中が痛くて、水分摂取が出来ない場合には、脱水症を起こさないように気を付けましょう。一般的な予防対策としては、手洗いうがいを行ってください。

また、同様の夏風邪であるヘルパンギーナも流行しています。2016年8月号もご参照ください。

文責： 清水マリ子

表：6月しみず小児科・内科クリニックで診断された流行性の感染症

	感染症	患者数
1	胃腸炎	43
2	手足口病	33
3	溶連菌	23
4	ヘルパンギーナ	14
5	アデノウイルス	7
6	突発性発疹	6
6	水ぼうそう	6
8	おたふくかぜ	1
9	RSウイルス	1

★病児保育室あんずからのお知らせ★

8月21～26日は、夏季休業とさせていただきます。ご不便をおかけし申し訳ございませんが、よろしくお願い致します。8月28日から通常通り開室致します。



しみず小児科・内科クリニック